USPTO、Info Graphics を多用した「Open Data Portal」の運用を開始

2016 年5月16日
JETRONY 知財部
今　村　、　丸　岡

米国特許商標庁（USPTO）は「Open Data Portal（https://developer.uspto.gov/）」のベータ版の運用を開始した。

同ウェブサイトは、同庁が所持する特許・商標に関連する大量のデータ（Bulk Data）を元データのまま提供するとともに、それを使った新たな統計資料を公開している。その統計は、単純な図や表ではなく、Info Graphics（伝わるグラフ）を多用しており、視覚的に分かりやすい様々な情報が含まれている（https://developer.uspto.gov/visualization）。

加えて、USPTO が作成したグラフのみならず、ユーザーは自身が作った作品をポータルサイトにアップデートし共有することが出来る。また、それに対し別のユーザーがコメントする機能なども用意されている。

開始に際し同庁の Tom Beach 長官室シニアアドバイザーは「今までに無い様々なデータを視覚的に読み取ることで、弊庁においてもリソース配分などがより的確に行われるだろう。また、将来的には Twitter などのオンラインフォーラムから弊庁顧客の質問や投稿を集め、また質問や苦情にリアルタイムで応答できることを目指している」とコメントしている。

＜提供されているグラフの具体例＞

〇州ごとの人口1000人あたりの特許件数の変遷（カリフォルニアの特許件数が80年代から増え始める。人口は少ないうえに IBM があるバーモント州が一番多い）
https://developer.uspto.gov/visualization/utility-patents-state-over-time

〇時系列の内外出願人の件数とその割合（2008年に外国出願人のシェアが米国出願人を越えている）
https://developer.uspto.gov/visualization/utility-patent-application-grant-count-2-visuals

〇特許発行件数と雇用の関連（雇用創出や雇用喪失の統計と、特許取得件数および人口1000人あたりの特許取得件数を年代ごとに比較）
https://developer.uspto.gov/visualization/state-job-data-against-patents

以上